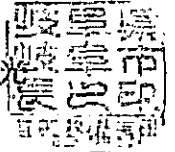


岐阜市基建 1 1 2 号

平成 2 0 年 1 0 月 2 0 日

国土交通省道路局長 様

岐阜市長 細江 茂光



道路行政についての意見・提案の提出について

平成 2 0 年 9 月 1 9 日付国道企第 3 7 号により依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案の提出について」は、別紙のとおり、まとめましたので提出いたします。

1 岐阜市の道路整備

本市は、「安心して暮らせる都市」「便利で快適な都市」「活力のあふれる都市」「人生を楽しむ都市」「多様な地域核のある都市」の5つの将来都市像を目指すなかで、広域交流の促進、産業の振興、観光の振興、集約型都市構造の実現を重点的に取り組む施策とし、広域道路ネットワークの整備や岐阜市ものづくり産業集積地の整備、まちなか歩き・まちなか観光の推進、中心市街地活性化などまちづくりと一体となった道路整備を積極的に進めています。

2 道路整備の財源及び予算の確保

地方が必要とする道路整備を着実に進めるため、来年度以降も道路整備の財源及び予算を確実に確保していただきたい。

3 必要道路整備の新たな中期計画への位置づけ

必要な道路整備は、今後見直される中期計画に位置づけ、着実に推進できるよう十分な予算措置をお願いする。

4 国民への説明やPR

今後見直される中期計画の策定にあたって、事業量総額の確保及びその推進に必要な道路整備の財源の確保について、国民の理解と協力が必要であるので、国民へのわかりやすい説明やより一層のPRなどが必要であります。

5 国道の地方移管について

一般国道156号岐阜東バイパスは、地域産業の振興・活性化、更には、災害時の緊急輸送路としても極めて重要な道路であることから、国が責任を持って、その整備及び管理を強力に推進していただきたい。

6 地方の道路整備を一層促進するための財政支援の拡充

地方の道路整備を促進するため、道路整備のニーズに応じて、弾力的、機動的に活用することが可能な地方道路整備交付金制度を存続し、補助率の引き上げや対象事業の拡大などを図っていただきたい。

また、地方の財政状況が極めて厳しいなか、直轄事業、補助事業とも地方公共団体の裏負担の支出がネックとなって、道路整備が進まない状況となっている。このため、直轄事業、補助事業とも地方公共団体の負担を軽減していただきたい。

7 高速ネットワークの効率的活用・機能強化

高速ネットワークや地域の有料道路の効率的活用のため、未償還金に道路財源を充て、通行料金の無料化や引下げを進めることは、広域的に人・もの・情報が行き交い我が国の経済・産業の発展のため検討されるべき課題であると考えられます。

8 道路予算の適正な執行と効率化について

道路予算については、道路整備関連の支出の在り方について抜本的な改革を行い、徹底的に無駄を排除し、かつ効率的な予算の執行をお願いします。

②—1 地域の現状と抱える課題

岐阜県岐阜市

○現 状	○課 題
①人口減少と高齢化 ②市街地の拡散と交通状況 ③中心市街地の活力低下 ④都市の活力、求心力の低下	・ 中心部における居住人口の減少による中心市街地の空洞化 ・ 人口減少・高齢化による住宅団地の空洞化に伴う郊外部衰退の懸念 ⇒『集約型都市構造への転換』 ・ 低密度な市街地形成の進行 ・ 建設事業は減少傾向、都市経営コストは増大 ・ 自動車利用の増大、公共交通利用の減少 ⇒『総合的な交通体系の充実』 ・ 都市機能拡散による中心部での利便性の低下、買い物・就業の場の減少 ⇒『中心市街地の活性化』 ・ 商品販売額・製造品出荷額は減少傾向にあり、産業活動が停滞・縮小 ⇒『産業の振興』

②-2 地域の目指すべき将来像

岐阜県岐阜市

将来の都市像

安心して暮らせる都市 ・ 便利で快適な都市 ・ 活力のあふれる都市
人生を楽しむ都市 ・ 多様な地域核のある都市

重点的に取り組む施策

地域活力の向上

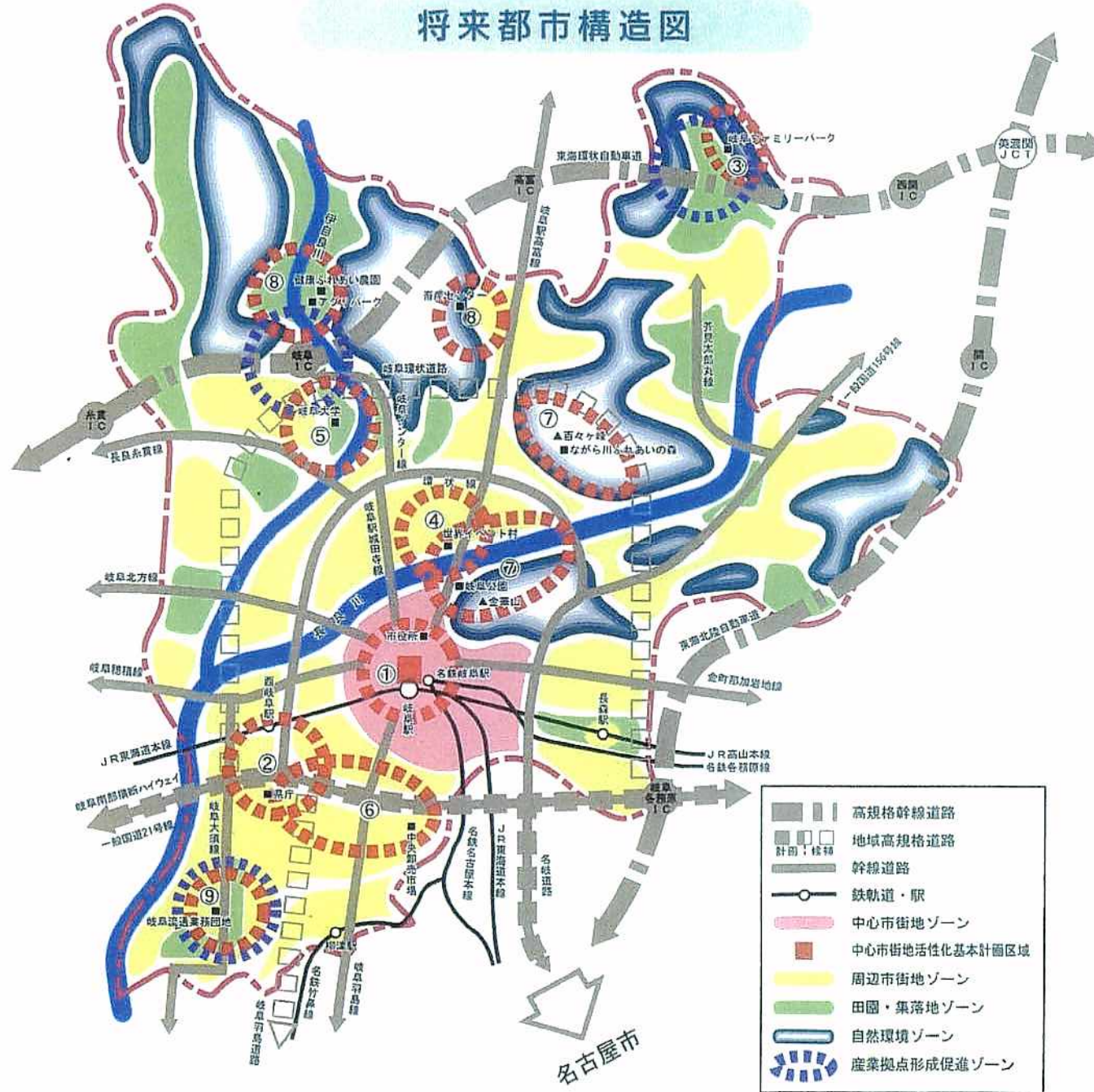
- 広域交流の促進
広域道路ネットワークの整備
高規格幹線道路、地域高規格道路
ＩＣアクセス道路
- 産業の振興
企業誘致の推進
ものづくり産業の誘致
既存産業のブランド力の強化

集約型都市構造の実現

- 中心市街地の活性化
中心市街地全体の魅力と活力の向上
岐阜駅周辺地区から柳ヶ瀬地区への回遊性
総合交通戦略の推進
- 都市交通の快適性、利便性の向上
県都岐阜市にふさわしい魅力ある空間づくり
岐阜駅周辺の整備
- 観光の振興
地域資源の活用 「信長公のまち」岐阜
まちなか歩き・まちなか観光の推進

大規模な地震、火災に強い都市づくり ・ 計画的効率的な維持管理や更新

将来都市構造図



③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
地域活力の向上 ○広域交流の促進 ○産業の振興	■東海環状自動車道 ・西回りルート早期開通 ・スマートIC整備(三輪北地区) ・ICアクセス道路の整備 ■岐阜南部横断ハイウェイ (岐阜市内立体化:岐阜市茜部本郷～長良川区間) ■名岐道路 (立体または部分立体化:一宮中入口～岐南IC区間) ■一般国道156号岐阜東バイパス第3工区	○期待する効果や評価等 ・広域的なネットワークを形成し、交通の円滑化や地域連携の創出、産業振興や市域の活性化、災害時の緊急輸送道路の確保 ☆広域道路ネットワークを有効に活用した新たな拠点づくり - ものづくり産業集積地の整備 - ライフサイエンス研究拠点 ☆観光地へのアクセス性向上 ☆所要時間の短縮 - 関市～大垣市間が25分短縮 ☆緊急医療ネットワーク強化 - 新たに43万人が岐阜大学病院へ30分以内で到着できる。 ☆都心部からインターチェンジへのアクセス道路整備を促進 ・地域相互の連携強化や活性化 ☆慢性的な渋滞解消 - 最大3kmに及ぶ渋滞を解消 ☆交通事故対策 - 事故多発場所 県内7-スト10のうち3箇所を対策 ・名古屋経済圏との広域連携強化 ☆名古屋～岐阜を30分間で直結 ・交通混雑・交通渋滞の解消、更に交通安全の確保を図り、国道本来の機能の回復と健全な地域開発の支援 ☆交通混雑の緩和 現道での混雑度を1.27から0.94へ緩和 (参考)既に4車線化が進められた第2工区では、混雑時の渋滞が解消。 (岐阜環状交差点、関市から岐阜市方面では、1,250m→0m)	○ その他 資料① 期待される整備効果 資料② 整備効果

大規模な地震、火災に
強い都市づくり

■橋梁の耐震補強

・東海地震をはじめ、東南海、南海地震の発生が懸念されており、震災時の緊急輸送路、避難路及びライフラインの確保のため、主要市道に架かる橋梁の耐震補強を行なう。

計画的・効率的な維持
管理や更新

■橋梁の長寿命化

・橋梁の高齢化に伴い、補修・更新が必要な橋梁が増加することを踏まえ、適切な補修・更新を計画的に実施し、地域住民・橋梁利用者の安全・安心を確保する。

・適切な補修や維持管理のための取り組み

岐阜大学と岐阜県により開設された「社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成ユニット」(H20 科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」採択)を受講し、長・中・短期的な視点から計画、設計、施工までを一貫して実施できる総合技術者を養成し、合理的な社会基盤整備と効率的な維持管理を行なう。

資料① 期待される整備効果

～渋滞解消と事故の削減～ 地域高規格道路 岐阜南部横断ハイウェイ 岐阜市内立体化

事業概要

■概要

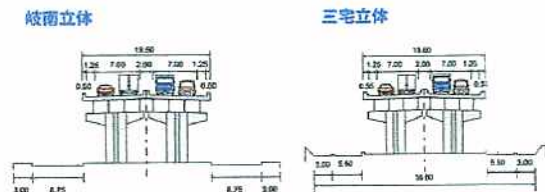
(全体)

事業名 : 地域高規格道路 岐阜南部横断ハイウェイ
起終点 : 岐阜県美濃加茂市～岐阜県大垣市
事業延長 : 約40km
道路規格 : 第3種 第1級
設計速度 : 80km/h

(うち岐阜市内立体化)

起終点 : 岐阜市茜部本郷～長良川
事業延長 : 5km(調査区間)

■標準断面図



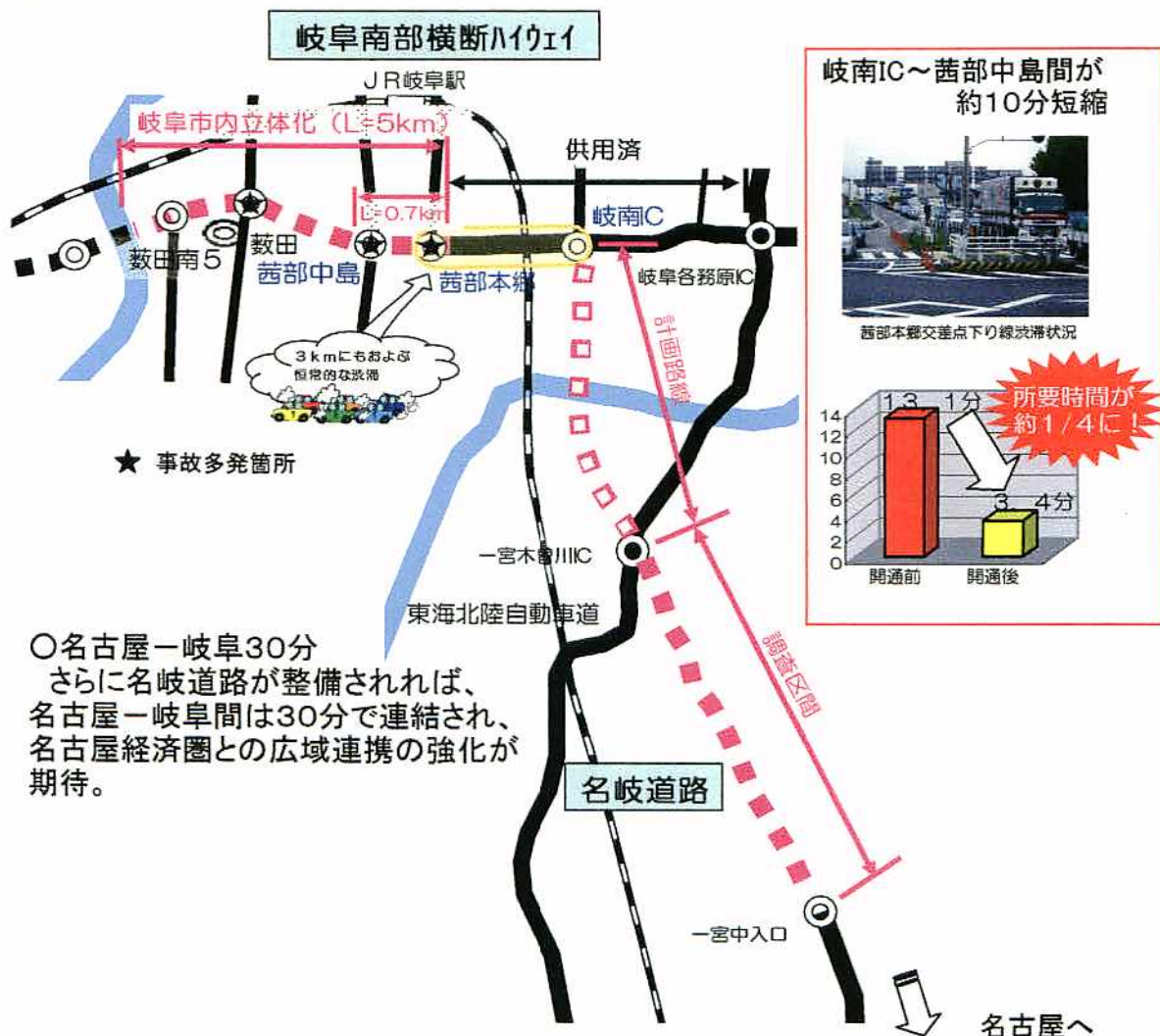
岐阜南部横断ハイウェイは、現在、岐阜各務原IC～岐阜市茜部本郷までの約6km区間が立体4車線化で供用され、調査区間である茜部本郷から長良川までの約5km区間は、平面6車線で供用されている。しかしながら、慢性的な渋滞発生や交通事故が多発しており、早期の岐阜市内立体化が必要である。

整備効果

○慢性的な渋滞解消と交通事故の削減

岐阜南部横断ハイウェイの茜部本郷～茜部中島間(0.7km)が立体化されることにより、岐南IC～茜部本郷間の慢性的な渋滞が緩和され、岐南IC～茜部中島間は、約10分短縮されます。

また、市内立体化することで県内交通事故多発場所ワースト10のうち3箇所で交通事故の削減が期待されます。



資料② 整備効果

～朝夕の渋滞解消と交通量増加～ 一般国道156号岐阜東バイパス(第2工区)

交通の円滑化

事業概要

事業年度：H15年度～H19年度

概要

起 点：羽島郡岐南町八剣

終 点：関市山田

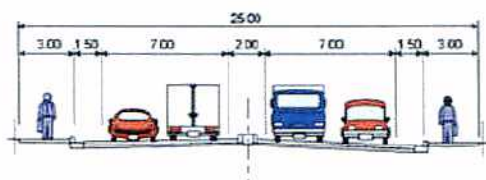
事業延長：L=13.4km(1～3工区)

岐阜東バイパスは、交通混雑緩和及び交通安全確保を図ることを目的とし、このうち岐阜市入舟町5交差点から岐阜市日野南1丁目(岐阜環状交差点)までの2.5kmについて、岩戸トンネルの2期線を含め、2車線で供用していた道路が4車線化された。

位置図



幅員構成



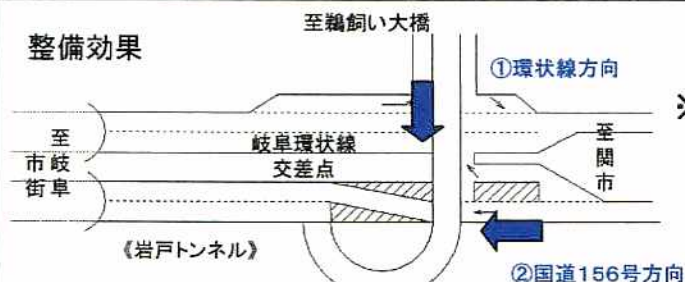
写真(着手前)



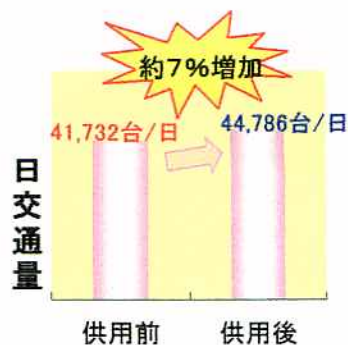
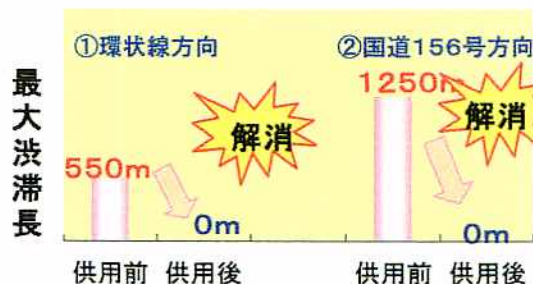
写真(完了)



整備効果



※4車線化整備によって利便性が向上し、交通量が増加するとともに、これまで発生していた渋滞がなくなりました。



既存施設を活かしつつ、ソフト対策を加味した
総合的な交通対策の推進

ハード施策

- 適正な交通分担に資する施設整備
 - ・トランジットセンター整備
 - ・歩行者空間整備
 - ・自転車走行空間整備
 - ・駐輪スペース整備等
- 幹線道路等の整備

ソフト施策

- 公共交通・自転車の利用促進
 - ・バスの利便性向上施策(走行環境・利用環境の改善)
 - ・利用促進活動
- 自動車からの転換促進
 - ・モビリティマネジメント(市職員から企業・市民への展開)
 - ・パーク&ライド実験

地域別の
考え方

【①中心部】

- 公共交通、徒歩、自転車のみで移動できる交通環境の実現
 - ・道路断面再構築による徒歩、自転車、公共交通空間の創出

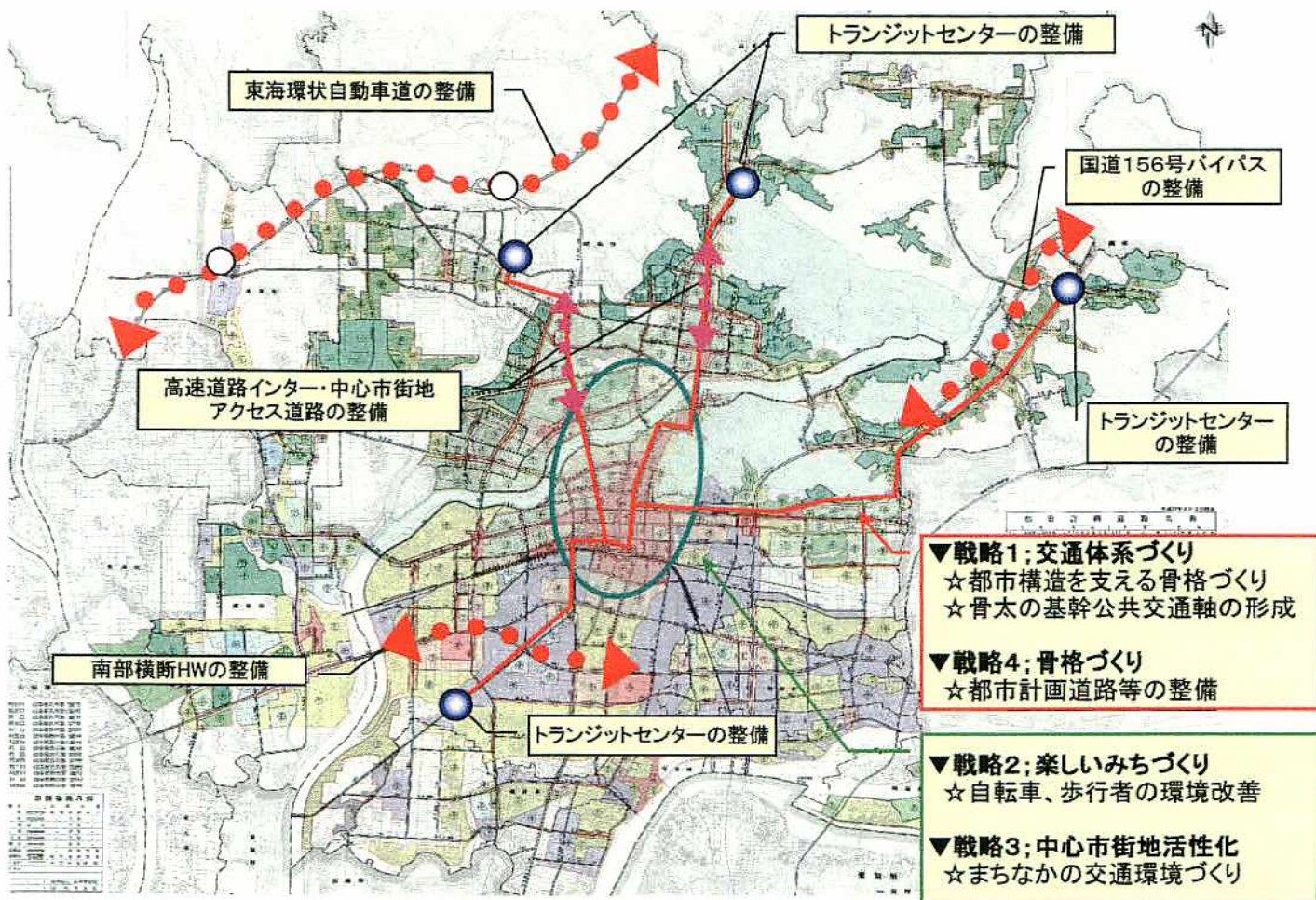
☆適正な交通分担の誘導
☆マイカーから公共交通等への転換の促進

【②周辺部】

- 公共交通が便利な交通環境の実現
 - ・渋滞解消のための幹線道路整備
 - ・幹線バス交通のための道路整備
 - ・主要バス停における駐輪場等整備

【③郊外部】

- マイカーと公共交通の適度な共存
 - ・都市間を結び、都市の骨格軸を形成する幹線道路整備
 - ・幹線バス交通のための道路整備
 - ・地域の交通拠点の整備



資料④ 整備効果

～都市再生の核となる県都の玄関口整備～ 岐阜駅北口駅前広場及び周辺整備

事業概要

事業費 約220億円(周辺整備含む)
事業年度 平成14年～24年度
事業名 土地区画整理事業
道路交通環境改善促進事業
都市再生総合整備事業
まちづくり交付金

広場面積 26,500㎡

- ・バス乗降場 15バス
- ・タクシー乗降場 乗車2台 降車2台
- ・一般車乗降場 7台
- ・駐車場 60台
- ・駐輪場 573台
- ・団体バス乗降場 7台
- ・トイレ2箇所

ポンチ絵(位置図)

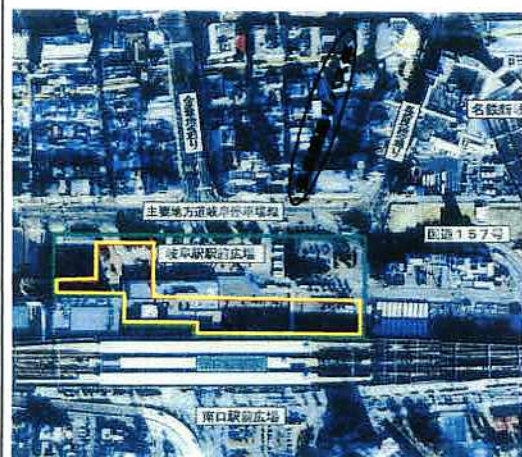


駅前広場面積構成

着手前 : 18,500 ㎡

完成 : 26,500 ㎡

写真(着手前)

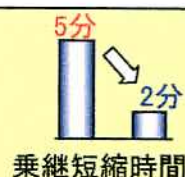


写真(完了)



整備効果

■ 広域交通拠点としての交通結節機能の強化
(交通施設が機能的に配置、連結され、鉄道から鉄道、鉄道からバス、バスからバス等の各交通手段間の乗り継ぎ不便や分かりにくさが解消され交通結節機能の強化が図られる)



鉄道⇄バス
時間短縮

■ 公共交通機関の利用促進
(交通結節機能の強化、交通円滑化が図られ、安全快適な駅周辺地区が創出されることにより鉄道、バス等の公共交通機関の利用促進が図られる)

整備前バス乗入本数: 約 850本/日

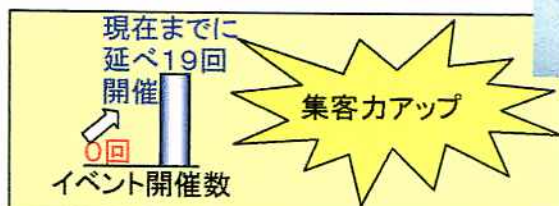
整備後バス乗入本数: 約2,350本/日



全路線乗入
で乗継便利

■ 駅周辺地区の活性化

(駅前広場中央や駅西デッキ上にオープンスペースを設置。イベントを開催することで駅周辺の集客力向上)



～路肩や交差点のカラー化で安全性が向上～ ゆとり・やすらぎ道空間(岐阜市加納西地区)

事業概要

事業費:市 254百万円
県 6,700百万円
(交通安全事業地区一括統合補助、
まちづくり交付金)

事業年度:平成17年度～平成23年度予定

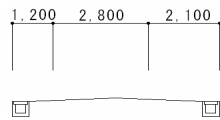
岐阜市加納西地区は、JR岐阜駅南側に位置し、あんしん歩行エリアに指定されている。地区内は小・中・高の学校、大型商業施設等があり、歩行者・自転車利用者が多くにもかかわらず、ラッシュ時等には周辺道路の渋滞を避け、車両が地区内道路に流入し、歩行者・自転車利用者は非常に危険な状態であった。

よって、歩行者や自転車利用者の安全を確保するため、路肩や交差点のカラー化等により交通の安全を図った。

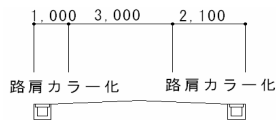
位置図



幅員構成 着手前



完成



写真(完了)

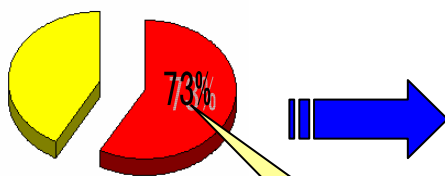


写真(着手前)



整備効果

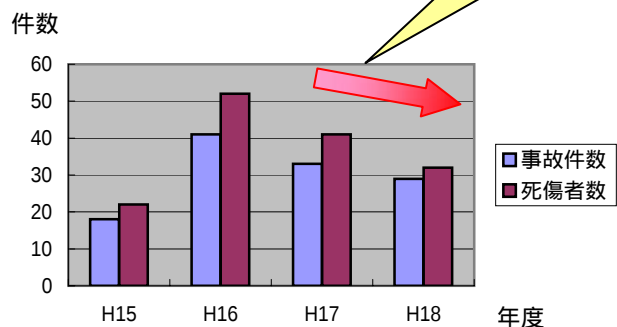
通学路のカラー舗装化率



地区内の通学路全延長のうちカラー舗装化率
(H19年度末時点)

通学路の歩車分離を
73%達成

地区内の死傷者事故件数の減少



工事着手以降、減少傾向
(H17年度以降)

岐阜県道路維持課調査データによる